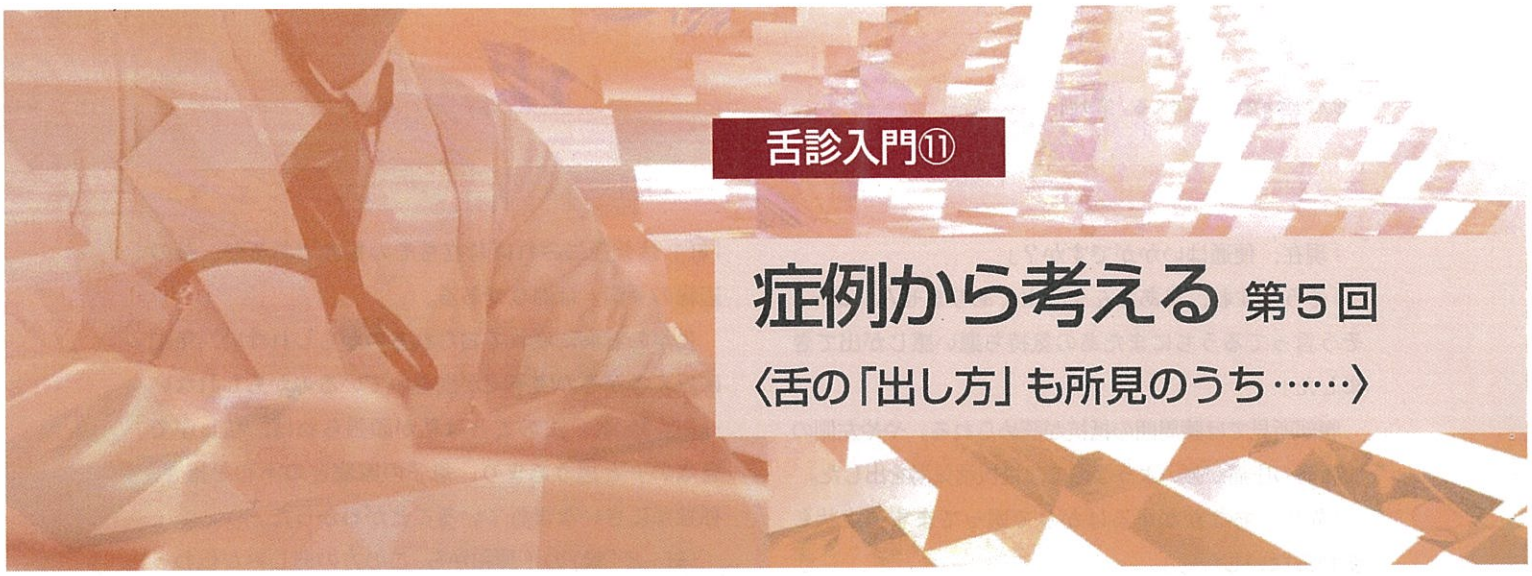

舌診入門⑪

症例から考える 第5回

〈舌の「出し方」も所見のうち……〉

三谷　和男　京都府立医科大学特任教授（京都市上京区）　三谷ファミリークリニック（堺市西区）

症例9　気虚による円形脱毛症

この方は30歳の男性で，医療系の専門学校生である。私が勤めていた病院で働きながら学校に通っていた。私の夜診担当の日に，半分泣きそうな雰囲気で相談に来た。

「先生，髪の毛が部分的に抜けてしまいました。どうしたらいいですか？」

「どうしたの？　なるほど，確かに脱毛症になっているね。何かあったのかな？じゃあ，べろをみましょうか。はい，べーッ」（**写真1**）と舌診を始めた。一見，分厚い舌で水滞を思わせる（**写真2**）。白浄苔が中央部にあるが，左舌辺は脱落している。地図状舌である。茸状乳頭は目立つが，うっ滞の所見はない。と，こういった「かたち」についての観察はできるが，それ以上に重視したいのは，舌の出し方である。この写真1枚ではわかりにくいかもしれないが，なにか出しにくそうである。勢いがない。これだけで気虚と判断，補中益気湯をお出しした。

こういったことも舌診に大切なポイントである。実はよく話を聞いてみると，当時学校のレポートはフロッピーディスクに保存して提出していたのだが，この方は，提出直前にそのフロッピーディスクを破損（初期化）してしまった。明日が期限で，頭真っ白，顔真っ青である。脱毛も，舌の出しにくさも，ここからきていたわけである。受診もいいが，とにかく再度原稿を作り直す作業にかからないといけない。今日は徹夜やね。レポート類は，無事期限ぎりぎりに間に合った。

7日後，もう，あのオドオドした雰囲気はない。病院の仕事にも身が入るようになった。「よかったね。がんばったね」

安堵の表情が浮かぶ。

「頭，診てみましょう」

もう脱毛の所見はない（**写真3**）。

「はい，じゃあ舌を出して」「はい，べーッ」（**写真4**）

今度はスンナリと出すことができた。分厚い舌質の所見はない。ただ，今度は浄苔ではなく，薄い膩苔である。内熱というほどの黄色の色調はないが，ストレスによる脱毛を考えていくうえで手がかりとなる所見である。

私たちは，常に未病をどうみるか，が課題である。初診では難しいが，経過をみていくうえで，舌の変化と全身状態は常に意識して考えたいものだ。写真はないが（体調に問題のないときは受診しないので，日常で観察している），落ち着いているときは，膩苔ではなく浄苔である。

こういった円形脱毛症は，難治の症例もあるが，舌の所見，というよりも出し方を重視して病態を考えることは有効である。

症例10　気滞による過度の緊張

患者は，44歳の女性。

「はじめまして。今日はどうされましたか？」

「はい，ここ数カ月，いえもっと前からでしょうか，何となくイライラして落ち着きません。主人が，そりゃ更年期じゃないか，というので婦人科を受診しましたが，あっさりとホルモン剤を出されました。少し服用しましたが，吐き気が出て止めました。長く続けるのも怖いので，漢方薬で治療してもらえないかと思ってきました」

「その婦人科の先生のところへは通ってるの？」

「いえ，ホルモン剤を飲まないので一回行っただけです」

「わかりました。ただ，その吐き気は，一方的にホルモン剤の副作用と考えない方がいいですね……」

ホルモン治療に限らず，漢方治療を望まれる方の中には西洋医学への誤解がベースになっているケースも多く，このあたりをきちんと説明するのも私たち漢方医の仕事であろう。

本題に入る。

「じゃあ，脈を診てみましょう。はい，いいですね。じゃあ，べろを出してください」

「えっ。べろを出すんですか」と，少しためらっておられたが，勢いよく出された。

舌尖が真っ赤である。対照的に白く抜けている部分があり，これを水滞と解説している先生もおられる。茸状乳頭のうっ滞があり，全般的には瘀血の色調である。しかし，なんとなく不自然さを感じる（**写真５**）。

「少し緊張されてますね。はい，ではもう一度ゆったりベーッと舌を出してください」

写真６は，同じ方の舌所見である。まったく別人のような所見だが，写真５との時差は３分である。つまり，初診で緊張感が強い方の場合，舌を出すときに緊張してしまうわけである。いわゆる「肩に力が入る」状態で，部分部分の所見よりも，こういった出し方を

写真１　円形脱毛症の所見。

写真２　舌を何とか出せた，という感じである。

写真３　円形脱毛症は改善。

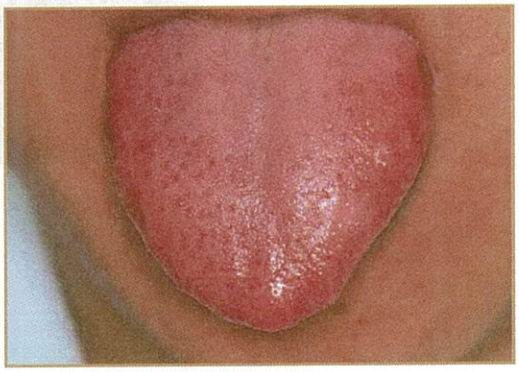

写真４　通常の舌診が可能となる。

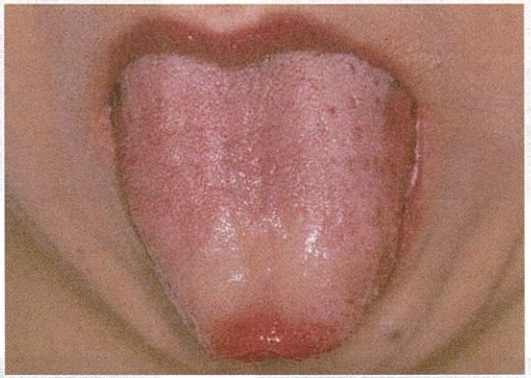

写真５　舌を出すときに，妙に肩に力が入ってしまっている。

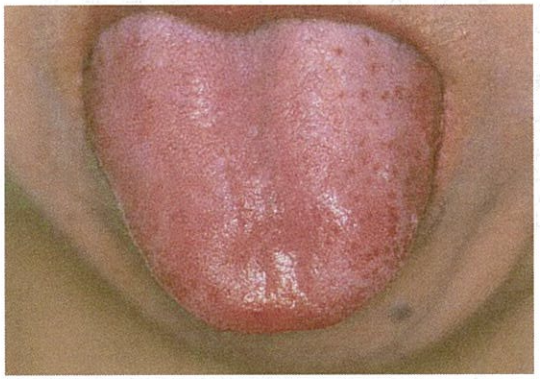

写真６　通常の舌診が可能となる。

してしまうことに意味がある。白浄苔が全面を覆っていて，茸状乳頭が目立つ。色調は暗紅色で，瘀血証と考えられるが，私は過度の緊張を気滞と考えて，半夏厚朴湯からスタートした。桂枝茯苓丸・加味逍遙散ももちろん間違いではないが，こういった「舌の出し方」も大いに参考になることを知っておいてほしい。